

# 平和教育登戸研究所資料館だより



2011年5月21日 第3号

# 2011年2月20日 五号棟 最後の公開見学会

旧日本陸軍登戸研究所の一施設で、当時の中国紙幣を偽造していたとされる五号棟が老朽化で解体されることとなり、2011年2月20日(日)に最後の公開見学会が開催されました。当日は約600名の方にご参加いただきました。



(上)資料館職員の説明を聴く見学会参加者

#### ◇■五号棟とは■◇

1939 (昭和 14) 年から 1941 (昭和 16) 年頃に建設されたと推定される木造平屋建ての建物です。登戸研究所では、第三科(偽札製造部門)に属し、中国の蔣介石政権(当時)の偽札を印刷していた工場であったと言われています。当時は、五号棟周辺には高い板塀がはり巡らされ、登戸研究所の所員でも、第三科関係者以外は自由に出入りすることはできませんでした。



(上) 五号棟内部を見学する参加者

#### ◇■なぜ登戸研究所で偽札印刷が行われたのか■◇

1937 (昭和 12) 年に日中戦争が全面化すると、日本陸軍は大規模な作戦を実施する一方で、中国(蔣介石政権)の偽札をバラまくことでインフレを起こし、中国経済を混乱させようという「通貨謀略工作」を計画しました。そのため登戸研究所で中国の法幣(紙幣)の偽札を大量に製造しました。中国紙幣の偽造は、1939 年頃から本格化し、敗戦まで続けられました。登戸研究所で偽造されたのは5元札から200元札で、総額40億元、そのうち25億元相当が実際に中国戦線での物資・食料の買い付け等に使用されたと言われています。

しかし、日本側が散布した偽札ではインフレは起きず、大戦末期に別の要因で中国に急激なインフレがおこり、1000元札・1万元札、ついには100万元札といった超高額紙幣が流通したため、日本側が散布した低額紙幣の偽札は無力化されてしまいました。

資料館では登戸研究所で印刷された未完成の偽札を展示しております。



(上) 五号棟全景 解体後は農学部の教育施設が建設される

今後、明治大学は現存する遺跡を保存するとともに、五号棟跡などに戦争遺跡が存在したことを示すモニュメント等を設置するなど、戦争の時代の出来事を後世に継承するために施設・表示を充実させていく方向で、戦争遺跡としてキャンパス内を整備していく所存です。

## 第1回企画展 2010年11月3日~12月18日

## 戦争遺跡写真展

## 「登戸研究所から戦争遺跡をみる~川崎を中心に~」



写真家 小池汪氏(写真中央)

2010年11月3日(水)から12月18日(土)まで,第1回企画展「戦争遺跡写真展 登戸研究所から戦争遺跡をみる〜川崎を中心に〜」を資料館内で開催しました。開催中の総来館者は2105名にのぼり、好評のため当初より2週間延長しました。

写真家小池 汪氏提供による、登戸研究所の活動、川崎周辺の戦争遺跡、研究所と密接な関係にあった 731 部隊史跡など 23 枚に渡る写真を展示し、戦争を経験していない世代も迫力ある写真に引き寄せられていました。開催時期に大学祭が重なったことから、幅広い年齢層の多くの方がご来館されました。

#### ◇■来館者のアンケートから■◇

「これまで登戸研究所については全く知りませんでしたが、ここの展示を見て、歴史に対する見方が変わるほど大きな衝撃を受けました。多くの人々に見ていただきたいと思います(50代女性)」

「入学した際に動物慰霊碑の話や風船爆弾の話は形だけ聞かされていました。ですので、 この資料館に来館して、改めてちゃんと整理された情報を知ることが出来て嬉しく思います(20代女性・明大生)」

などの感想が多くみられました。



資料館廊下壁面を利用して展示



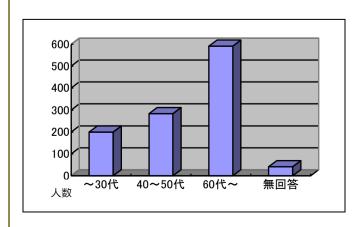
講演会「登戸研究所と<秘密戦>|

また、企画展初日の2010年11月3日、記念講演会が開催されました。

第1部では、熊井啓監督『帝銀事件 死刑囚』を上映しました。かつての研究所本館や渡り廊下が登場、当時の研究所の様子が想像できました。第2部の山田館長の講演とあわせ60名が参加、その大半が講演後、資料館を見学されました。

来館者からは「史料の収集など、他のミュージアムなどとの連携も含めて、どうぞがんばって下さい(60 代男性)」「大学生にも見せたり、聞かせたりされると良い(年代不詳女性)」などのエールが寄せられました。

### 2010年度 来館者動向 (2010年4月7日~2011年3月11日回収来館者アンケートより)



資料館では、来館者のご要望に応えるため、また来館者の動向を調査するために開館時よりアンケートへのご協力を呼びかけています。2010年度来館者数 11,166 名のうちアンケート回答数は 1,139 通でした。

アンケート調査の結果、来館者の各世代占有率は、30代以下は18%・40代~50代は25%・60代以上は53%でした(グラフ参照)。来館のきっかけで最も多かったのは「新聞・テレビ」38%、次に多かったのが「知人の紹介」25%でした。すでに来館したことのある方が、ご友人などを連れて再度来館されるようです。このようにリピーターが多いのが当館の特徴の一つであるようです。



## 第二回 弥心神社(現 生田神社)も登戸研究所の遺跡?

小田急線生田駅から明治大学へ向かう急坂を登りきったところに弥ごが神社はあります。この神社は、1943(昭和18)年3月、篠田鐐所長と第二科の伴繁雄氏が陸軍技術有功章を受章した際の賞金1万円(現在の約1000万円)で動物慰霊碑と同時に建立されました。研究所時代のご祭神は知恵を司る八意・思・兼神、天の岩戸神話で、岩戸を開ける方法を考え出したという神様です。研究中の事故で亡くなった所員を慰めるために東京の陸軍科学研究所内の神社より分祀され、戦勝祈願や慰霊祭、出征する所員の見送りなどが行われたそうです。

戦後、研究所の敷地が米軍により接収され、弥心神社も廃社になりました。明治大学が払い下げを受けた際、生田神社と改め、豊 受 まおかみ をまてらずおおみかみ 大神と天 照 大神を祀り直し、毎年生明祭の頃(11月20日前後)に祭礼を行っています。

次回は動物慰霊碑についてご紹介いたします。



1988 (昭和63) 年に建立された登戸研究所跡碑。

裏側には、「すぎし日は この丘に 立ち めぐり逢う」という、元登 戸研究所勤務員らの積年の思いが こめられた歌が刻まれています。



2010年11月18日に 行われた祭礼の様子

## ◇■資料館活動報告■◇

#### 侵華日軍第731部隊罪証陳列館へ 石井式瀟水機讀過筒寄贈

「731部隊被害者遺族を支える会」を通じて金成民氏(侵華日軍第731部隊罪証陳列館館長)より石井式濾水機濾過筒寄贈の要望がありました。これを受け、2010年11月23日豊島区民センターで行われた【合唱「悪魔の飽食」と731部隊証言集会】にて山田館長から金館長へ寄贈がなされました。

侵華日軍第731部隊罪証陳列館とは、中華人民共和国のハルビン市平房区にある資料館です。旧日本陸軍関東軍防疫給水部(通称731部隊)の遺構保護と展示を通じて、平和を訴えることを目的として1983年に設立されました。金館長は、20年に渡り731部隊について研究しており、最近では731部隊に関する新たな資料を発見し、被害者の特定を行うという成果をあげています。



濾過筒寄贈の様子

(左から楊彦君館長助理,金成民館長,山田朗館長)

#### 長野県への資料調査

2010年10月に長野県駒ケ根市にある故伴繁雄氏宅にて資料調査を行いました。伴繁雄氏は登戸研究所第二科でスパイ兵器の研究・開発を行っていた班の班長であり、登戸研究所の中心を担っていた一人でした。終戦間近、登戸研究所が長野に疎開した際に伴氏も長野へ移り、戦後も住んでいました。

今回の調査では、石井式濾水機濾過筒の確認と、伴氏が使用した机、 ルーペ、メジャー、フラスコ、「第一班鍵箱 伴少佐」と書かれた鍵箱 及び鍵を収集しました。今後資料館ではこれらの資料を展示していく 予定です。





濾過筒 花壇の土留めとして使用されていた濾過筒かつては軍事秘密だった濾過筒も本来の利用目的を失い, 花壇の

一部として平和な時を過ごしていました。

# 資料館からのお知らせ

## 来館者1万人突破!

当資料館は、3月29日に開館1周年を迎えることができました。開館後わずか1年で入館者1万人を突破することができ、注目度の高さを資料館職員一同改めて感じています。

計画停電等の影響により3月12日から一カ月ほど休館していましたが、4月14日に無事再開を果たすことができました。再開後入館者第1号の坂内様には感謝の意味を込めて、山田朗館長より記念品の贈呈が行われました。(写真下)



#### 展示解説DVD完成

山田館長による各展示室の分りやすい解説と、当時の関係者の証言を交えた新しいDVDプログラムが始まります。すでにレストスペースではダイジェスト版を上映しており、みなさまにご好評をいただいております。

今夏には各展示室にDVDプレイヤーを設置し、来館者の方がご自由に各展示室の詳しい展示解説をご覧いただけるようになります。どうぞご期待ください。

それでは、各展示室の見どころをご紹介いたします。

- ■レストスペース学内に残る登戸研究所史跡紹介30分で資料館の概要を知りたい方におすすめ
- ■第一展示室■ 当時の登戸研究所の様子がわかる証言
- ■第二展示室■ 風船爆弾製造や風船爆弾作戦に関わっていた人の 証言/風船爆弾が実際に飛んでいる映像
- ■第三展示室■ 『雑書綴』から第二科の活動内容を探るところ
- ■第四展示室■ 偽札を中国に運ぶ仕事をしていた人の証言
- ■第五展示室■ 語り始めた登戸研究所関係者たち

見学ツアー 開催のお知らせ

#### 山田 朗 館長(明治大学文学部教授)・渡辺賢二明治大学兼任講師による 登戸研究所史跡ツアー

明治大学構内に残る登戸研究所史跡を巡ったあと、資料館を解説つきでご案内いたします。

開催日:5月28日/6月11日,18日,25日/7月2日,9日,16日,23日

集合場所:午後1時 生田キャンパス 中央校舎1階ロビー

内 容:集合後 明治大学生田キャンパス内登戸研究所史跡見学

午後1時半 登戸研究所資料館見学

午後2時半頃 解散予定

参加費:無料

≪学外の方は要事前予約≫



編集・発行: 明治大学平和教育

登戸研究所資料館

**〒**214-8571

神奈川県川崎市多摩区東三田 1-1-1 明治大学生田キャンパス TEL/FAX: 044-934-7993

Mail: noborito@mics.meiji.ac.jp URL: http://www.meiji.ac.jp/

5月20日現在の来館者数は、

12,000名です。

#### く開館のご案内>

水曜日~土曜日 午前10時~午後4時まで

入場料:無料

※10名以上の団体見学を希望する場合は、原則、見学希望 日の1ヶ月前までに、電話またはメールにて事前に予約し てください。

※団体見学の場合は日曜日も予約可能です。 ご相談ください。